

10月

【収藏品紹介】
三戸與彰編輯『盆栽手引種』（篆々堂、明治16年）

『盆栽手引種』は明治16年（1883）3月に発行された盆栽の培養法を解説した書籍です。本書について、盆栽史研究者の岩佐亮二氏は、盆栽の刊行物の草分けであると評しており、「民間の趣味家にも盆栽が普及し始めたので、僻遠の地岩手の寒村でも和十五丁の小冊子ながら、刊行を成し遂げるほどの盛り上がりが見られたのであろうか。」と述べています（『盆栽文化史』1976年、八坂書房）。今回は、本書の紹介をおして、



『盆栽手引種』（明治16年発行）表紙

明治初期の盆栽事情について検討します。まず、発行に携わった人々について、奥付に編輯人の三戸與彰、出版人の田鎖綱郎、表紙に校閲者の小栗嘉兵衛の名があります。三戸與彰と田鎖綱郎はいずれも岩手県士族です。小栗嘉兵衛は、序文に「元内丸公園 植木屋」との肩書があり、現在の盛岡城址公園（岩手公園）で植木屋を営んでいたことがわかります。小栗嘉兵衛が記した序文によると、「岩手県に奉職の折柄」に三戸與彰から小栗嘉兵衛へ本書の校閲の依頼があったといえます。岩手県で植木屋を営みつつ、公務に当たっていたことで、小栗嘉兵衛は地元士族の三戸與彰とのつながりがあったようです。小栗嘉兵衛は公務の余暇として校閲を引き受けましたが、都合によって公務を辞し、上京後に発行となった経緯が序文に書かれています。つまり、本

書は士族である三戸與彰を中心に、植木屋の小栗嘉兵衛の協力を得て発行された書籍であることがわかります。

なお、小栗嘉兵衛は上京後、巢鴨に住しました。上京した詳細な理由は不明ですが、当時、植木屋が集中していた巢鴨に引っ越したことは、彼が植木屋であったことと関係があった可能性があります。

次に、本書が発行された背景と意義について考えます。三戸與彰は本書を発行した経緯について、「盆栽の世に流行する月に年に旺盛な趣き意巧種々ありと雖も、我縣下に於たるや、此の道の書籍乏しが故に、初て之れを愛するものは、栽培の法を知らざりしより、自然草木弱り、終に枯朽に至らしむる」ことを憂いたため、本書を発行したと凡例で述べています。このことから、①明治16年には世の中に盆栽が流行していたこと、②一方で岩手県では盆栽関連の書籍が少なかったことが読み取れます。岩手県に盆栽関連の書籍が少ないことについては、二つの場合が想定されます。一つは、明治初期にそもそも盆栽関連の書籍の絶対数が少なかった場合で、もう一つは、盆栽関連の書籍が発行されていたが、岩手

県には流通していなかった場合です。前者の場合、本書は盆栽関連書籍の出版における草分け的な位置付けができ、後者の場合は、地方への盆栽の広がりを示す書籍として位置付けられます。いずれの評価を下すかは、明治初期における盆栽関連書籍の出版状況について研究する必要がありますが、これは今後の課題です。また、凡例では、本書は三戸與彰自身が実際に経験したことをもとに編集したもので、盆栽に精通した人たちに向けた

ものではなく、あくまで盆栽を初めて愛好する人たちに向けた書籍であると述べています。つまり、盆栽愛好家である三戸與彰が、初心者向けの基本的な書籍を出版したということとです。それは、内容構成にも表れています。本文は、「土拵の仕法」、「肥拵の仕法」、「栽培の仕法」に始まり、各植物の説明があり、別立てで接楚（つぎほ）・接木・挿木・暖室・土室などが図入りで示されています。各植物の項目には、植替・接木の時期、鉢上げ、肥料、水、土について記述されています。また、これらの記述は、盛岡の気候に即した植物の培養方法であると付言されています。奥付の編集人や発行人、売捌人の肩書が全て盛岡に所在する地名であることから、地元士族を中心に、地元民のために発行された書籍であるといえます。

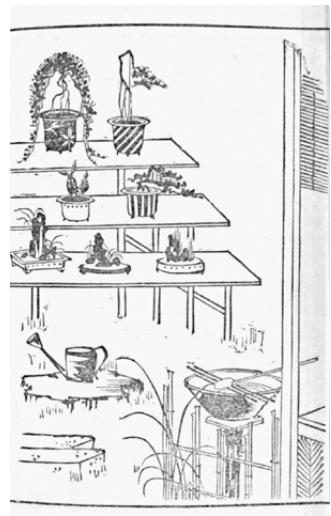
最後に、本書から、明治初期に一般化されていくと言われている「盆栽」の読み方について見てみます。

小栗嘉兵衛が記述した序文には、仮名が振られていないため、どのような読み方をしていたのかは不明です。三戸與彰が記述した凡例と本文には、全てに仮名が振られているので、読み方が判明します。凡例には6回「盆栽」の表記があり、5回は「ぼんさい」、1回は「さいばい」の仮名が当てられています。本文には4回「盆栽」の表記があり、「ぼんさい」と「ぼんさい」の仮名がそれぞれ2回ずつあります。その他、「盆」や「栽」が単体で使用される場合、「はち」や「うゑ」の仮名が付されます。凡例と本文はいずれも三戸與彰が記述している文面であることから、明治初期では、「はちうゑ」と、「ぼんさい」が同一人物によって併用されていたようです。つまり、「はちうゑ」と「ぼんさい」の読み方が併存する過渡期であったと考えられます。

このように、明治16年は「はちうゑ」から「ぼんさい」へと読み方が変化する過渡期であり、京阪や東京以外の地方にも盆栽が広がっていたことが、本書からわかります。（当館主事 立石昌雪）



『盆栽手引種』接木・挿木の挿絵図



『盆栽手引種』盆栽絵図